

デザイナーのための経済コラム(37)

生成AI・生成的人工知能について(2)

そもそも、生成AI・Artificial Intelligence の定義とはどんなものでしょうか。

NTTdataによれば、一般的には「人が実現するさまざまな知覚や知性を人工的に再現するもの」

<https://www.nttdata.com/jp/ja/services/data-and-intelligence/001/>

とされますが、決まった定義はないということです。一般的に言われる「人が実現するさまざまな知覚や知性」とは人間が意識的、また無意識に作り出したものがすべてそうです。その次の「人工的に再現するもの」といえば、人間が作り出したものの複製、繰り返しの行為になります。今、問題としていっているのはその複製や再生行為を機械・コンピューターにさせることといわれますが、これだつてすでに永い間やってきたことです。何も目新しいことではないと思います。では何が問題なのでしょう。

日本で問題にしているのは子どもや学生が宿題や課題を自分自身で調べず、考えないでいきなり機械・コンピューターの「生成AIのソフト」を使い、知的活動・思考をしないことで、学習や研究にはならないではないかということです。それで成績や報酬が決まるのは不公平でズルイといえます。しかし、これもすでに社会ではやっていることです。他人の著作物の引用やコピー、盗作、他社、他人のニュース取材を引用しています。見学会、講演会、図書館、博物館、美術館などは人間の知的活動の成果物を提供する場所です。ノーベル賞検討委員会では、候補者の論文が他の研究者にどれだけ引用され、寄与したかが評価基準の一つとされると言われています。(実際はブラックボックスでかではありません。)技術移転は知識・技術を複製・コピーすることから始まります。ただし、合法的か、非合法かという問題はあります。別の視点では意識的に犯罪に使われた場合にどうして見破るかという課題があります。

アメリカでは映画製作会社の仕事をしている、脚本家や俳優が仕事を奪われるとか、過去の仕事が無断で勝手に使われる。対価がなく、職業生活が破壊され、個人の仕事の尊厳が無視されると抗議のストライキをしました。この問題は著作権の定義の問題かと思えます。また、創造性とは何か、人権・人格・仕事とは何か、企業活動とは何かということが共通に認識されていないことに問題があると思えます。

これらの問題は、先人へのリスペクト・敬意・感謝の気持ち、後継者、次世代への未来、将来委託の意志があるかどうかだと考えます。また、先人の知識・技術を複製・再生して利益を生もうとする場合は適正な対価・報酬が考慮されているか、されるべきかという現実的な問題があると思えます。自由主義経済、資本主義経済の定義、あり方が議論される背景とも思えます。別の視点からは共同体、コミュニティの存続の問題でもあると思えます。

個人の知識・技術、さらに人格は生まれてからの知覚認識と行動経験の蓄積物だと思います。それは個人だけでなく、人類全体の知識・技術についても同じように思えます。そのようなことを西田幾多郎は「善の研究」の中で、外界を認識したことがその人間の本質と述べています。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/善の研究>

個人の知識・技術、さらに人格などの情報は個人の脳の中に生成され蓄積、保存されます。現在の科学技術では、そのままと本人しかその情報を活用することはできません。もし、将来、人間の脳の中をすべて、完全に読み取るような機械装置が出来れば話は変わります。それこそ、本当に徹底した「個人情報保護法」が必要になります。そんな機械装置ができれば、うそ発見器も不要になり、裁判制度も、法律も会議、議論も劇的な変化が起きると思えます。

生成AIを使うか、使わないか、使えるか、使えないか、読み取り判断の仕方次第で、経済格差、情報格差セキュリティなど、個人としても、企業としても、国家としても今後ますます格差が広がって行くと思えます。

しかし、生成AIが利用できるのは、超大型のコンピューター、サーバーに入力されたデジタルデータだけです。これまでにデジタル化されて入力された情報の質、量としての視覚、聴覚、触覚、嗅覚、言語は全体の数パーセントだと思います。人類全体の情報量はまさにガンジス川の砂の数粒に過ぎないと思えます。